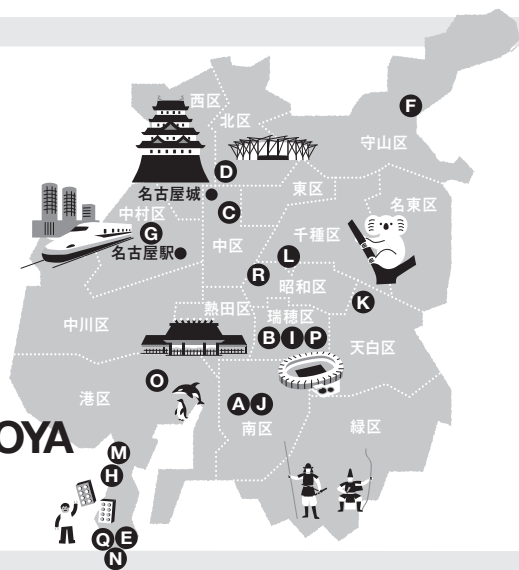


名古屋市内で開催される競技会場

NAGOYA



アジア競技大会・
アジアパラ競技大会へ
お出かけの際は、
あわせて名古屋の名所も
お楽しみください。

2026年9月19日(土)-10月4日(日)

メイン会場 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

■名古屋市内で開催される競技

※令和7年12月1日時点の情報

競 技	会 場
水泳(水球)	A 名古屋市総合体育館[レインボープール](南区)
陸上競技 (トラック・フィールド・マラソン・競歩)	B 名古屋市瑞穂公園陸上競技場(瑞穂区) B 名古屋市瑞穂公園陸上競技場(都心コース)(瑞穂区) C 愛知県庁・名古屋役所周辺コース(中区)
バスケットボール	D 愛知国際アリーナ(北区)
バスケットボール(3x3)	E 金城ふ頭駅前特設コート(港区)
自転車競技 (マウンテンバイク・BMXレーシング)	F 小幡緑地(守山区) G 名古屋競輪場 BMXレースコース(中村区)
サッカー	H 名古屋市港サッカー場(港区) I 名古屋市瑞穂公園ラグビー場(瑞穂区)
体操(体操・新体操・トランポリン)	J 名古屋市総合体育館[レインボーホール](南区)
柔道	D 愛知国際アリーナ(北区)
ラグビー(ラグビー7s)	I 名古屋市瑞穂公園ラグビー場(瑞穂区)
テニス(テニス・ソフトテニス)	K 名古屋市東山公園テニスセンター(天白区)
ウエイトリフティング	L 名古屋市中小企業振興会館(千種区)
レスリング(フリースタイル・グレコローマン)	M 名古屋市稲永スポーツセンター(港区)
スポーツクライミング	N 名古屋市国際展示場[ポートメッセなごや](港区)
コンバットスポーツ (総合格闘技・柔術【西アジア発祥】クラッシュ【中央アジア発祥】)	O 愛知県武道館(港区) M 名古屋市稲永スポーツセンター(港区)
武術太極拳(套路・散打)【東アジア発祥】	O 愛知県武道館(港区)
セパタクロール【東南アジア発祥】	P 名古屋市瑞穂公園体育館(瑞穂区)
スカッシュ	Q 名古屋金城ふ頭アリーナ(港区)

※最新の会場情報はアジア競技大会のHPをご確認ください。※その他県内・県外の会場の詳細はホームページをご覧ください。

2026年10月18日(日)-10月24日(土)

メイン会場 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

■名古屋市内で開催される競技

※令和7年12月1日時点の情報

競 技	会 場
ボッチャ	J 名古屋市総合体育館[レインボーホール](南区)
車いすバスケットボール	D 愛知国際アリーナ(北区)
ブラインドフットボール	R 名古屋市鶴舞公園多目的グラウンド[テラスポ鶴舞](昭和区)
パラ陸上競技	B 名古屋市瑞穂公園陸上競技場(瑞穂区)
パラ柔道	O 愛知県武道館(港区)
パラパワーリフティング	L 名古屋市中心小企業振興会館(千種区)
パラ水泳	A 名古屋市総合体育館[レインボープール](南区)
パラテコンドー	P 名古屋市瑞穂公園体育館(瑞穂区)
パラフェンシング	M 名古屋市稲永スポーツセンター(港区)
車いすテニス	K 名古屋市東山公園テニスセンター(天白区)

実施競技
18
競技

※最新の会場情報はアジアパラ競技大会のHPをご確認ください。※その他県内・県外の会場の詳細はホームページをご覧ください。

Urban
Sports
NAGOYA

◎発行：名古屋市役所 スポーツ市民局スポーツ戦略課 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 発行日：2026年3月5日（木）

◎企画 デザイン・制作：株式会社クアーズ
◎取材・文：山田智子
◎写真：今井正由己
◎印刷：鬼頭印刷株式会社

www.aichi-nagoya2026.org

www.asianparagames-2026.org



Urban sports are competitions like BMX, 3x3 basketball, climbing, and skateboarding that showcase individuality and creativity within urban spaces



Urban Sports NAGOYA

アーバンが、 最高のステージになる。

見慣れた街角の広場や商店街が、
一瞬で世界とつながるステージに変わる。

型にはまらず、自分らしく。

選手も観客も、大人も子どもも。

その境界を飛び越えて、

誰もが自由楽しめるのがアーバンスポーツの魅力だ。

必要なのは、踏み出す好奇心だけ。

さあ、この街で、感動を共に分かち合おう。

ここでは、名古屋を拠点に世界を切り拓くトップアスリートの情熱と、
街に溶け込んだアーバンスポーツの「いま」を紹介する。
彼らの視線の先にある、創造的な世界をぜひ体感してほしい。

CONTENTS 03-04 中井 飛馬 BMX Racing Asuma NAKAI
05-06 高橋 美由子 3x3 Basketball Fuyuko TAKAHASHI
07-08 須澤 篤 Sport Climbing Atsushi SUZAWA
09-10 織田 夢海 Skateboarding Yumeka ODA



「今年からアメリカを拠点にしようと準備をしていたのですが、このコースをテストして、考えが変わりました。コースの難易度やレイアウトも自分の技術を磨くのに最適ですし、雨天でも練習でき、クラブハウスも整っている。多くのBMXコースは山の中にあるのですが、ここは街中にあるのも魅力でした」。練習の充実はもちろん、日常をストレスなく過ごすことが最高のパフォーマンスを引き出すと考えた。

楽しさが「生きがい」に変わるまで

前回のパリ五輪の選考期間中は、度重なる怪我に苦しめられた。3ヶ月リハビリをして、復帰したと思ったらすぐに怪我。「何でこんなしんどいことを続けているんだろう」。そう思った瞬間は一度や二度ではない。「子どもの頃は、ただただBMXが楽しいという気持ちで続けてきました。でも、ここ5年くらいは、楽しさに加えて、勝ちたいという気持ちが強くなりました」。怪我と闘いながらも、世界に挑み続けたなかで変化した気持ち。それはプロライダーとして成熟してきた証でもある。「転んだら痛いし、負けたら悔しい。それでも挑戦する面白さ、結果が出ても出なくてもレースで自分が理想とする動きができた時や、日々の練習で自分のベストを更新できた瞬間に『生きてるな』と感ずることができるようなんです」

わずか40秒、その刹那にすべてを注ぎ込み、理想を追い求める。中井選手の挑戦は、観る者の心にも熱い『生きている実感』を呼び起こしてくれる。



コースを取り合うため、転倒がつきもの。そのリスクを回避するためにも、先行逃げ切りが有利なのだ。

スタートで優位に立つ。このスタイルを武器に、中井選手はアジアの頂点へと駆け上がった。

「出だしの数漕ぎは技術が必要なんです。例えば、パワーが100点でフォームが70点の選手よりも、パワーが70点でフォームが100点の選手の方が良いスタートを切れる。僕はパワーのなかった子どもの頃から繰り返し練習をして、スタートの最適な“フォーム”を確立しました」

技術で勝負をしてきたと胸を張る中井選手は、2連覇を果たした2025年の日本選手権でも、スタートで抜け出し、そのままゴールまで独走して完全勝利を飾っている。「子どもの頃から磨き続けてきた」スキルは、海外のトップライダーからも評価が高い。



「自分で操縦できるジェットコースター」に夢中に

新潟県出身の中井選手は、5歳の時にBMXに出会った。高所に登ることやジェットコースターが好きだった少年は、「日常では味わえないスピード感と自分で操縦できる面白さに速攻でハマった」

みるみるうちに頭角を現すと、9歳の時に初めて全日本選手権の年代別カテゴリーで優勝。11歳の時に世界選手権で初めて決勝に進出し、世界で上位8人だけが背負うことが許される、ライダーにとって至高の称号「ワールドゼッケン」を獲得した。

「子どもの頃から技術で勝負してきましたが、高校生になって身長が伸び、そこにパワーが加わって、コンスタントに世界で上位に入れるようになってきました」

2021年には年齢別の世界一を決めるUCI(国際自転車競技連合)ワールドカップシリーズのU23カテゴリーでチャンピオンに輝く。日本人では初めての快挙だった。さらに2023年の杭州アジア大会でアジア王者に、アジアでは敵なしと言われる存在となる。目の下目標は、愛知・名古屋2026アジア競技大会で2連覇を達成し、それをステップアップとして2028年ロサンゼルスオリンピック出場。今年秋から始まる選考レースに万全の状態での臨むため、中井選手は大きな決断をする。昨年8月に誕生した「NAGOYA KEIRIN BMX」に拠点を移したのだ。

わずか40秒に凝縮された、技術と駆け引き

ビル3階相当の高さから、8人のライダーが一斉に飛び出してくる。時速60kmの猛スピードで急斜面を下りると、コース上に設置された大小のジャンプやバームと呼ばれるコーナーを技術と駆け引きを駆使して走り抜ける。ゴールまでは約400メートル、その間わずか40秒ほど。「BMXレーシング」はスピードや一瞬の判断が勝敗を分ける緊迫感に、誰もが固唾を呑む。

0.01秒が勝負を分ける短期決戦は、スタート、ジャンプ、コーナーに入る時のコース取りなどで生じるわずかなロスが命取りになる。中でも、「スタートが一番重要であり、見どころ」と日本のBMX界を牽引する中井飛馬選手は語る。「自転車の格闘技」とも言われるBMXレーシングは、激しく接触しながら有利な

BMX Racing 主なルール

- ① 20インチの自転車を使用
- ② 起伏のあるコースを、ジャンプを繰り返しながら走行して着順を競う
- ③ 上位4名が次のラウンドに進出し、決勝は8人で行われる

周辺情報



名古屋競輪場横に2025年8月31日オープンしたBMXレースコース

●BMXレースコースすぐ近くの中村公園周辺は、戦国の英雄・豊臣秀吉と加藤清正ゆかりの地として知られるまちです。秀吉公を祀る「豊国神社」や、清正誕生の地と伝わる「妙行寺」、2人の武将を紹介する「秀吉清正記念館」などが点在。園内には期間限定の「豊臣ミュージアム」もオープンし、歴史散策が楽しい、見どころあふれるエリアです。



名古屋競輪場BMXレースコース
〒453-0053 名古屋市中村区中村町高畑68
※名古屋競輪場BMXレースコースは愛知・名古屋2026アジア競技大会の会場です。

Asuma NAKAI BMX Racing

刹那を制し、 ロス五輪へ加速する

中井 飛馬(なかい あすま) **PROFILE** : ピーズインターナショナル所属。2000年6月24日生まれ、新潟県出身。現在は活動拠点を名古屋に置く。5歳のとき新潟県上越市金谷山にてBMXレースと出会う。11歳の夏、世界選手権で、念願のワールドゼッケンを獲得。12歳で本場アメリカの強豪チームにスカウトされ海外へ転戦を始める。2019年にはエリートクラス1年目ながら全日本選手権で優勝。2021年には日本人で初めてUCIワールドカップシリーズのU23シリーズチャンピオンに輝く。『2025アジアBMXレーシング選手権大会』優勝、日本選手権2連覇中。 ※2026年1月15日インタビュー



Fuyuko TAKAHASHI
3x3 Basketball

3x3が灯した 再挑戦の火

高橋 美由子(たかはし ふゆこ)PROFILE：三菱電機 コアラーズ、FLOWLISH GUNMA所属1994年11月23日生まれ、秋田県出身。桜花学園高校、白鷗大学と、全国屈指のバスケの強豪校で研鑽を積む。大学卒業後は実業団チームでプレーし、一度は引退するが、2023年に3x3の選手としてコートに戻る。2024、25年の「3x3.EXE PREMIER」のシーズンMVPと得点王を2年連続で獲得。3x3日本代表に選出され、「FIBA 3x3アジアカップ2025」では初の銀メダル獲得に貢献。得点王&ベスト3にも輝いた。 ※2025年12月18日インタビュー

12秒で攻守が入れ替わる。目まぐるしい展開に熱狂

3人制バスケットボール「3x3(スリー エックス スリー)」は、街中や公園など屋外のコートで行われていたストリートバスケットボールが発展したもの。2007年にFIBA(国際バスケットボール連盟)によって正式な統一ルールが設けられ、オリンピックでは東京2020大会から正式種目に採用された。

3x3のルールはおおむね5人制と同じだが、いくつか異なる点がある。試合は通常のバスケの半分のコートで行われる。5人制の3ポイントラインはアークラインと呼ばれ、ラインの内側から放たれたシュートは1点、外側からのシュートは2点となる。

2025年のFIBA 3x3アジアカップで準優勝の立役者となった3x3日本代表の高橋美由子選手が「3x3はショットクロック(ボールを保持してからシュートを打つまでの時間)が12秒なので、攻守の切り替えが速く、5人制よりもスピード感があります」と話す通り、目まぐるしく変わるエキサイティングな展開が魅力だ。試合時間は10分間の短期決戦。10分以内であっても21点先取したチームが勝者となる。



「5人制のブザービーターみたいに、21点目が入ったら、選手も観客も『ワー』と盛り上がりって終わるのが楽しいです。一方で、『出だしてつまずいたらどうしよう』『やばい!もう21点にいってしまう』というスリルも3x3でしか味わえません」と現在も5人制のプレーヤーでもある高橋選手は3x3ならではの魅力を語る。



3x3 Basketball 主なルール

- 1 ショットクロックは5人制の半分の12秒
- 2 得点は、アーク内が1ポイント、アーク外は2ポイント
- 3 試合時間は10分間、または21ポイント先取で勝利

周辺情報

●「3x3」は金城ふ頭駅前、「スポーツクラ イミング」はポートメッセなごや、「スカッシュ」は名古屋金城ふ頭アリーナに。複数の愛知・名古屋2026アジア競技大会の競技会場を設置する金城ふ頭エリアは、レゴブロックのテーマパーク「レゴランド・ジャパン」や鉄道博物館「リニア・鉄道館」など人気レジャースポットもあり、観光も満喫できるエリアです。

金城ふ頭駅前特設コート
〒455-0848 名古屋市港区金城ふ頭3丁目
※金城ふ頭駅前特設コートは愛知・名古屋2026アジア競技大会の会場です。

名古屋フェリー埠頭
伊勢湾岸道
レゴランド・ジャパン
メイカースピア
名古屋金城ふ頭アリーナ
スカッシュ会場
名港中央C
ファニチャードーム
金城ふ頭駅
リニア鉄道館
3x3会場
クルーズ名古屋
金城埠頭東船場
ポートメッセなごや
スポーツクライミング会場
名古屋港

試合会場は街。ライブ感覚で楽しめるバスケ

3x3の試合は、栄の「オアシス21」や犬山の成田山など、商業施設や広場、地域のランドマークなどで開催される。一部有料のシートもあるが、無料で見られる観客席もあり、気軽に観戦できるのも3x3の良さだ。「冷暖房がない中でのプレーは身体的には過酷ですし、シュートが風の影響を受けることもあります。でも、たまたまお買い物や観光に来た方が足を止めて試合を観戦して、そこからファンになってくださることもあります」

試合中も音楽が鳴り響き、DJのパフォーマンスが観客を盛り上げる。バスケに詳しくなくても、ライブ感覚で楽しむことができる。

「選手入場時の曲を選手が決められるんですけど、特に海外ではジャパニーズカルチャーが人気なので、去年のアジアカップはCANDY TUNEの『倍倍FIGHT!』、去年の「FIBA 3X3 Women's Series」は『THE FIRST SLAM DUNK』の主題歌10-FEETの『第ゼロ感』を選んで、海外のお客さんに非常に喜ばれました」。こうした選手のサービス精神も人気拡大に一役買っている。

名古屋から世界を目指す新たな挑戦

名古屋市にあるバスケの名門・桜花学園高校出身の高橋選手。白鷗大学では同大学初のインカレ制覇に貢献。大学卒業後は実業団チームで4年間競技を続けたが、「やりきった」と選手生活に一度は区切りをつけた。就職し、バスケから離れた生活を送っていた2023年、友人に誘われて3x3と出会う。

「5人制の時は途中出場で流れを変える役割が多かったのですが、3x3は交代選手を含めて4人でプレー

するので、一人一人の役割が大きい。同じバスケですけど、全く違う状況でのプレーがすごく新鮮でした」。3x3に夢中になった高橋選手は、この年に群馬県で誕生したFLOWLISH GUNMAに加入し、本格的に競技を始める。

シュート力とアグレッシブなドライブを持ち味とするプレースタイルが3x3に合っていたことも大きかった。すぐに頭角を現した高橋選手は、日本代表にも選出。現在3x3の活動を続ける傍ら、名古屋市に本拠地を置く5人制バスケットチーム「三菱電機コアラーズ」に所属している。

三菱電機は、2026シーズンよりコアラーズから選手を選抜し、「FIBA 3x3 Women's Series」に日本企業として初めて参画することを発表している。

名古屋から世界へ。高橋選手の活躍とともに、街を舞台にした3x3は名古屋に新しいスポーツカルチャーを築いていくことだろう。





須澤 篤(すざわ あつし)PROFILE：ボルダリングハウス「KNOT」オーナー。15年以上にわたり家族でクライミングを楽しみ、2018年に円頓寺商店街にボルダリングハウス「KNOT」をオープン。「日本スポーツ協会公認スポーツクライミングコーチ1」審判員の資格を取得し、国民体育大会でスポーツクライミング 愛知県代表の監督を務めた経験を持つ。 ※2025年12月18日インタビュー



ガラス越しにも伝わるワクワク。商店街に溶け込む「真剣な遊び場」

名古屋駅と名古屋城のちょうど中間に位置し、下町情緒あふれる「円頓寺商店街」。その東の入口付近にある古民家の中を、帰宅途中の小学生が窓に張り付くように覗き込んでいた。

少年が見つめていたのは、カラフルな、形もさまざまな突起がぎっしりと取り付けられた壁。反り返った高さ4メートルほどの壁を、突起に手や足をかけ軽快に登っていく人の姿が見える。

ボルダリングハウス「KNOT(ノット)」。「東京2020」から正式にオリンピック種目になった「スポーツクライミング」の一種「ボルダリング」を楽しめる施設だ。「大好きなクライミングを通じて地域の「結び目」になりたい」と、オーナーの須澤篤さんは、空き家になっていた築50年以上の元電気店「旧サカエ堂」の面影を残しながら、いま街に生きる人たちが「真剣に遊べる場」としてリノベーションした。



「クライミング施設は広いスペースを必要とするので、ほとんどが郊外にあります。商店街の中にあるのは全国的に見ても非常にめずらしいと思います。商店街に来られた方に興味を持っていただけるように、アーケード側をガラス張りにしたので、お買い物に来られた方や外国人観光客も通りすがりに寄ってくれたりすることもあります」と須澤さんは語る。

「クライミングはどの年代からも始められる生涯スポーツ。下は小学生、上は70代。お子さんやお孫さんと連れてきてくださる方もいますし、『死ぬまでに一度やってみたかったんだよね』と来てくださったご年配の方もいます」

「だから、例えば、季節ごとに変わるコース(課題)に『りんご狩り』『あじさい課題』とわくわくするような

名前をつけて、少しでも敷居を下げられるような工夫をしています」

選手同士は敵じゃない？ 協力し合って課題に挑む

須澤さんがクライミングに出会ったのは15年以上前。娘さんが小学校2年生の時に、ゴールデンウィークに出かける場所を探していて、「たまたまその日が雨だったので、室内でできるボルダリングに行った」のがきっかけだった。

「性別、大人と子ども、体格や体力、筋力は全く違うんですけど、家族3人で『こうしたらできるよ』と協力してコースを読み解いて、互いに応援し合って登ることがとにかく楽しかったんです」とその日から家族全員がボルダリングに魅せられた。

ボルダリングはそれぞれが黙々と壁に挑む個人競技という印象があるが、須澤さんによると「大会では順位がつきますが、選手同士の争いというよりは、コースを設定するセッターと選手の対決」なんだそう。「だから、選手同士で『あなただったらどう登る?』と話し合っているんです」と競技の裏側を明かす。

選手の特徴に合わせた攻略法の違いが見どころ

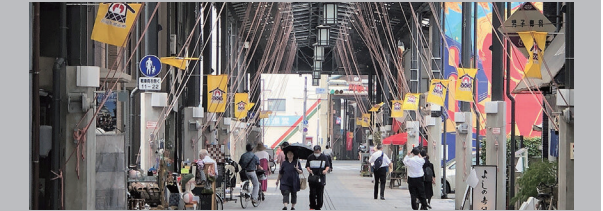
須澤さんはKNOTのオーナーとして競技の普及に努める一方、国民体育大会の愛知県代表チーム監督を務めるなど、トップ選手の強化にも携わってきた。2025年の「国民スポーツ大会 東海ブロック大会」では、2022年の「ボルダリングジャパンカップ」で優勝した倉菜々子選手(2023年ボルダリング日本代表)と、「IFSCクライミングユース世界選手権2023」で銀メダルを獲得した高尾知那選手(2024年リード日本代表)を指導して、愛知県成年女子チームを1位通過に導いた。



Sport Climbing 主なルール

- ① 高さ5メートル以下の壁を、ホールドを使って登り切る
- ② セッターが設定した課題を制限時間内にいくつ完登したかを競う
- ③ 制限時間内であれば、何度でも挑戦が可能

周辺情報



●名古屋駅から徒歩約10分の円頓寺商店街。名古屋でも屈指の歴史を誇る商店街で、今も古き良き下町の風情が息づいています。鉄板焼きの「日喜屋」や、独自スタイルのエビフライで知られる洋食店「はね海老」など、長年愛され続ける名店が軒を連ねます。さらに、現存する喫茶店では名古屋最古といわれる「喫茶まつば」も。ノスタルジックな時間を楽しめます。近年は話題の新店も増え、注目を集める街です。



ボルダリングハウス「KNOT」
〒451-0042 名古屋市区西那古野1丁目35-13
スポーツクライミング会場(p.06のマップへ)
名古屋市民国際展示場[ポートメッセなごや]
〒455-0848 名古屋市区港金城ふ頭3丁目2-1
※名古屋市民国際展示場[ポートメッセなごや]は愛知・名古屋2026アジア競技大会の会場です。

「倉選手はボルダーを得意とする選手なので、躍動感のある登り方をするんです。バスケットボールをやっていたから、「え?」っと驚くような動きをするんです。一方で高尾選手はリードが得意で、一手一手着実に登っていくんです」とそれぞれの魅力を紹介する。

また、2025年に韓国・ソウルで行われた「スポーツクライミング世界選手権」の「パラクライミングWOMAN B1(全盲)クラス」で金メダルに輝いた青木宏美選手もKNOTを練習拠点にしている。

「ボルダリングは身長や体重によるクラス分けがないので、身長150cmの選手も170cmの選手も同じ課題に取り組みます。観戦する際は、体力や身長・体重、手の長さが違う選手がどのように課題を攻略するのか、その違いに注目してもらえると楽しめると思いますよ」



Yumeka ODA Skateboarding 地元で挑む、 新たな伝説

織田 夢海(おだ ゆめか) **PROFILE** : 2006年10月30日生まれ、愛知県名古屋市出身。サンリオ所属。7歳でスケートボードを始め、11歳の時に第2回日本スケートボード選手権で2位に輝く。翌年からX GamesやSLSといった世界最高峰の大会に参戦。2022年に行われたSLS Jacksonville大会では単トリックに付く得点として女子史上最高・女子史上初の9点台(9.4点)を記録。2023年のワールドスケートボードストリート世界選手権2023東京で優勝。現在、日本スケートボード選手権大会3連覇中。 ※2026年1月6日インタビュー

世界王者を育てた、高架下のスケートボードの聖地

名古屋市の中心部、名古屋高速の高架下にある若宮大通公園。いまにも雪が降り出しそうな寒空の下、小学生から10代、20代、上は50歳くらいまでだろうか、幅広い年齢の男女がスケートボードを片手に続々と集まってくる。

お父さんに手を引かれながら恐る恐る滑る女の子、オーリーの練習をする高校生4人組、縁石や手すりを模した「セクション」に飛び乗って繰り返し技の練習をするスケーターの姿もある。誰かが高難度な技を決めれば、自然と拍手と歓声が沸き起こる。賑わうパークの喧騒を切り裂くように、ひときわ高く、鋭い音を響かせてトリックを決める女性スケーターがいた。2023年世界選手権金メダリスト、織田夢海だ。愛知県名古屋市出身の彼女は、子どもの頃から若宮大通公園を“ホームパーク”のひとつとしてきた。



「大会中はライバル選手とバチバチになったりすることもあるんですけど、技をメイクした時にはみんなでハグをして称えあったり、一緒に喜び合えるところが



スケボーの魅力だと思います。難しい技、新しい技に挑むときは誰もが怖いです。そういう時に、周りの人たちがみんなで盛り上げて、背中を押してくれるんです」

現在19歳の織田選手だが、競技歴は10年以上。7歳の時に、叔父の勧めで「スノーボードのオフシーズンのトレーニングとして」スケートボードを始めた。最初は地元のスクールに入り、ランプと言われるU字型の施設で滑った。「坂を下る時のスピード感が楽しくて、すぐにスケボーに夢中になりました」。大会に出場すると、いきなり3位に。「それからは、もっといろいろな大会に出たいと、毎日スケボーを練習するようになりました」

トリック(技)を覚えるにつれて、ストリート競技の楽しさに魅了された織田選手は、若宮大通公園や庄内緑地などに足を運ぶようになる。「小さい頃は知らない人が滑っているところに入っていくのに結構勇気がいりました。でも、少しずつスケボー仲間ができて、トリックを教わったり、いろいろな話をしたり。仲間の存在によって、スケボーをする時間が充実していきました」。その中には、日本の女性スケーターの先駆けで、若宮大通公園スケートパークのリニューアルに携わったKAMAさんこと宮本美保さんもいた。世界で活躍する先輩スケーターに刺激を受け、織田選手も世界が目指すトップスケーターへと急成長していった。

Skateboarding 主なルール

- ① 階段やレールなど街中を模したコースで技や滑りの美しさを競う
- ② 「ラン」2本と「ベストトリック」5本で採点
- ③ 難易度、完成度、独創性など多種多様な要素で評価

周辺情報

●都心にあるこのスケートパークでは、トリックに挑戦し撮影を楽しむ人も。周辺にはストリートファッションブランドが集積する栄ミナミや裏路地にまでも古着屋がひしめく大須商店街。なごやめしを楽しめるお店も充実。ストリートカルチャーを満喫できます。



愛知県国際展示場[Aichi Sky Expo]
〒479-0881 愛知県常滑市セントレア5丁目10-1
※愛知国際展示場[Aichi Sky Expo]は愛知・名古屋2026アジア競技大会の会場です。



若宮大通公園スケートパーク(若宮大通公園内)
〒460-0011 名古屋市中区大須3丁目

愛知・名古屋2026アジア競技大会で、過去の自分を更新へ

織田選手の代名詞は、女子選手では彼女にしかできない「キックフリップフロントサイドフーブルグライド」。ボードを縦横に1回転させて構造物に飛び乗り、後輪のトラック(車軸)部分で滑る技だ。2022年のSLS(Street League Skateboarding) Jacksonvilleビル大会では、単トリックに付く得点としては女子史上最高・女子史上初の9点台(9.4点)を叩き出した。この得点は今も更新されていない。

実はこの高難度の技は、悔しさによって磨かれたものだった。

「東京2020のために用意していたのですが、五輪の選考に漏れてしまい、披露できずに終わってしまいました。その悔しさから練習を重ね、翌年の大会で9点台を出すことができました。とても自信になりましたね」

スケートボードの採点には絶対的な基準がない。同じ技でも大会ごとに評価基準が変わり、今日の新技は1年も経てばその鮮度を失っていく。「だから、どんどん新しい技に挑戦していかないと、勝つことは難しい」。目まぐるしく進む世界で、織田選手は常に未知の領域に挑み続けている。

昨年11月のスケートボード・ストリートの日本選手権では、後ろ向きに構造物へ飛び乗って前輪の車軸を斜めにかけて滑り、板を縦1回転させて着地する「バックサイドKグライド・ノーリーフリップアウト」を成功させ、大会3連覇と愛知・名古屋2026アジア競技大会への出場が内定した。

「地元・名古屋で開催される大会に絶対出たいと思っていたので、すごくプレッシャーがかかっていたのですが、練習通りにやればできると信じて臨みました。苦手なランでミスなく滑りきることができたし、ベストトリックも決めることができて、少しは成長できたかなと思います」

地元での大舞台に向けて、新たなトリックにも挑戦している。「自分にしかできないトリックを出したいと思うので、ぜひそこに注目してください」

